

「主の祈り」は、主イエス様の力の源泉に気付いた弟子たちの要望に応えて、教えられた祈りです。しかしこの「主の祈り」は、イエス様が祈られる祈りではありません。これは主イエス様を信じる人間、弟子たち用に変えて教えて下さった祈りです。

特に、この「私たちの罪をお赦し下さい」のことばは、祈りに応えて下さる神様のあわれみが前提にあります。それは、私たちの罪を赦すため、罪の無い神の御子イエス様が十字架に架かって身代わりになって下さったことが土台にあるのです。

今日の聖書の学びの要点

- ・十字架の愛が分かり、悔い改めて、罪を赦して頂いた人は、自分に罪を犯す人を赦し、受け入れができるようになるのです。

I、まず、自分の赦しから

(ルカ 11: 4)

1、毎週礼拝でする「主の祈り」と、新改訳2017の訳と比べてみましょう。違いを見ましょう。

① 「我らに罪を犯す者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。」
(文語)

② 「私たちの罪をお赦しください。

私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します」(新改訳2017)

2、①と②の違いは何でしょうか。原文は②(新改訳2017)です。
両方とも間違いでありません。

Ⅱ、大きな負債を赦された者

(マタイ 18:23~35)

1、マタイ 18:23~34 の一人の家来の話には、3つの出来事が入っています。それぞれ見てみましょう。

①マタイ 18:23~27

- ・一万タラントの 負債とは何か?
(6,000 億円相当)
 - 神様から人生のために預っていたタラント
 - 失敗によって生じる負債(借金)
- ・莫大な負債で、返済などできない。
- ・王である主人はかわいそうに思って、負債を免除してくださった。

②マタイ 18:28~30

- ・出会った仲間に 100 デナリ(100 万円相当) 貸していた。
- ・仲間は彼に返済できなかつた
- ・彼は赦してやらず、牢に入れた。

③マタイ 18:31~34

- ・主君は怒って、彼を牢に入れた。

2、彼はどうして仲間を赦すことができなかつたのでしょうか。

3、マタイ 18:35 とルカ 7:47 を読みましょう。

主に少ししか愛されていないと思っているなら、仲間を少ししか赦せないでしょう。私たちは仲間を多く赦せる者になっているでしょうか。